

かのがわ
狩野川水系直轄砂防事業
説明資料

平成28年8月1日

国土交通省中部地方整備局
沼津河川国道事務所

目 次

1. 事業の概要	1
1) 流域の概要	1
2) 事業の目的及び計画内容	4
2. 評価の視点	5
1) 事業の必要性に関する視点	5
(1) 事業を巡る社会情勢の変化	5
(2) 災害発生時の影響	6
(3) 事業の効果	7
(4) 事業の進捗状況	8
3. 県への意見聴取結果	9
4. 対応方針(原案)	9

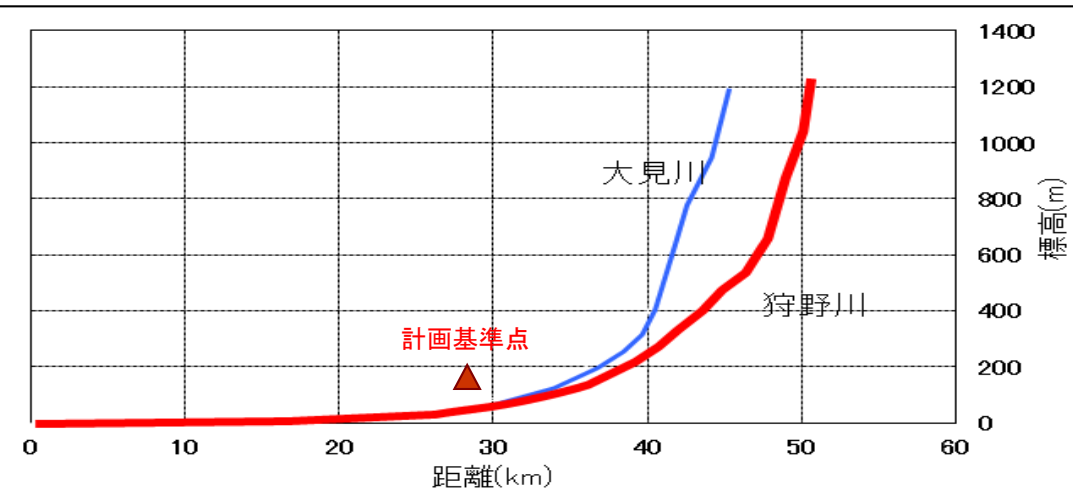
1. 事業の概要

1) 事業の概要

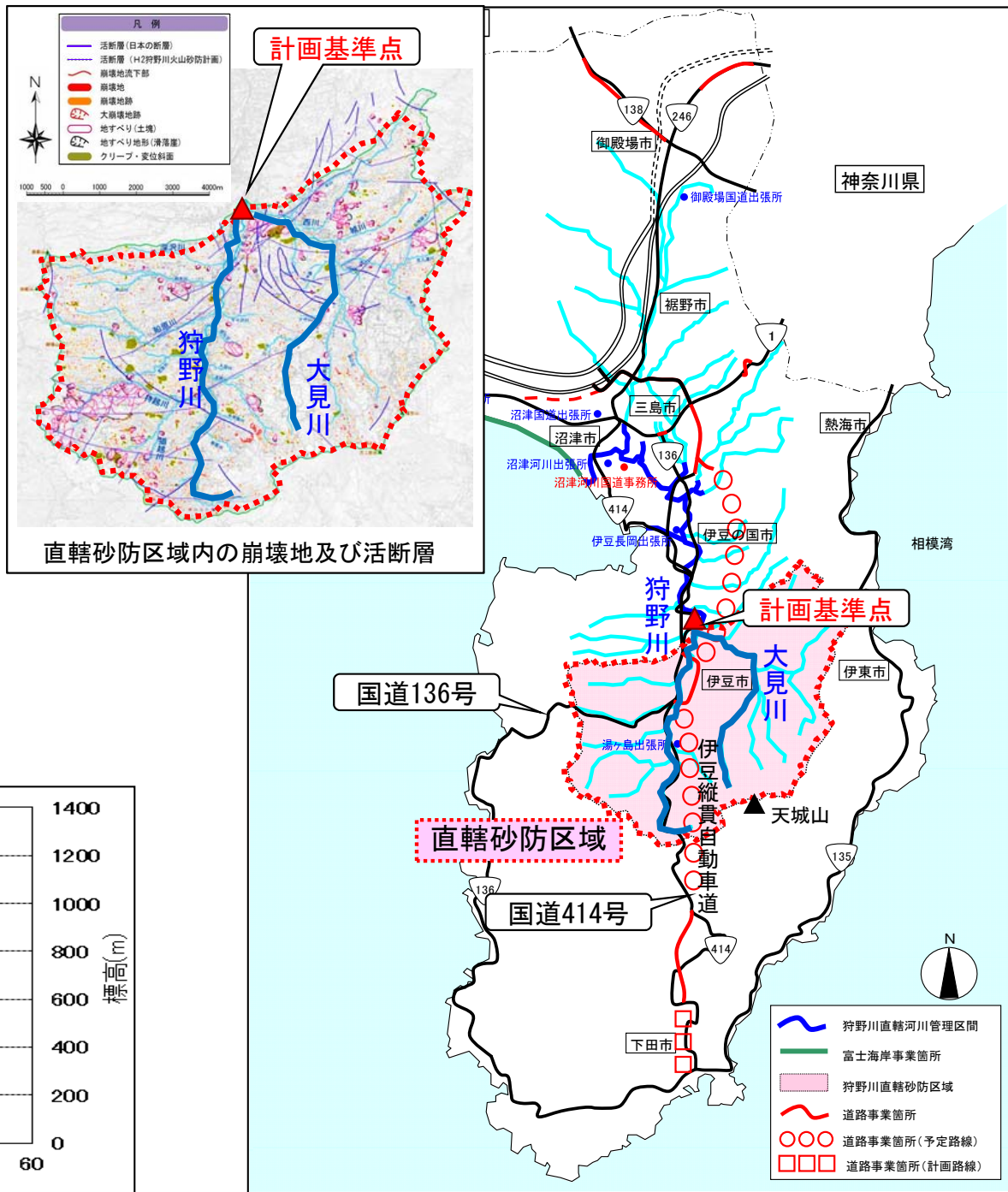
■狩野川砂防流域諸元

水源：天城山
 流域面積：約270km²
かのがわ おおみがわ
 主要河川：狩野川、大見川

- ・活断層や火山堆積物等で構成される脆弱な地質と急峻な地形
- ・日本有数の多雨地域
- ・狩野川本川は伊豆市、伊豆の国市の中心市街地を北向きに流下
- ・緊急輸送路である国道136号、国道414号などが通り、伊豆縦貫自動車道を整備中



狩野川、大見川の河川縦断面図



流域の荒廃状況

- ・日本有数の多雨地帯（約4,400mm／年（天城山観測所））
- ・急峻な地形と火山堆積物等で構成された脆弱な地質
- ・昭和5年の北伊豆地震では山腹崩壊に伴い河道が閉塞
- ・昭和33年の狩野川台風を契機に直轄砂防事業着手
- ・多数の土石流危険渓流が隣接して存在
- ・小規模な表層崩壊は毎年のように発生



しゅぜんじ
修善寺での崩壊
(H26.10台風18号)



おおだいらかきぎ
大平柿木での崩壊
(H27.7大雨)



しもおのがわ
下尾野川での崩壊
(H24.5大雨)



崩壊
流出箇所
狩野川
山腹崩壊に伴う河道閉塞箇所
北伊豆地震(S5)



狩野川台風(S33)による崩壊
大見川の蛇喰山
じゃばみやま

凡 例
○：土石流危険渓流

■ 災害等の状況

■ :土砂・洪水氾濫災害 ■ :土石流災害

昭和33年9月26日 狩野川台風に伴う被災状況

- ・時間雨量120mm、総雨量739mm(湯ヶ島観測所)
- ・約1,200箇所の山腹崩壊、22箇所の堤防の破堤・欠壊
- ・死者684人、行方不明者169人、家屋被害6,775戸



昭和57年9月12日 台風18号に伴う被災状況

- ・時間雨量86mm、総雨量709mm(上大見観測所)
- ・多数の山腹崩壊が発生
- ・家屋被害103戸



平成15年7月4日 集中豪雨に伴う被災状況

- ・時間雨量105mm、総雨量218mm(持越観測所)
- ・多数の山腹崩壊
- ・土砂流出により国道414号通行止め



平成16年10月9日 台風22号に伴う被災状況

- ・時間雨量68mm、総雨量389mm(上大見観測所)
- ・土砂流出により国道136号通行止め
- ・死者1名



平成24年5月2日 大雨に伴う被災状況

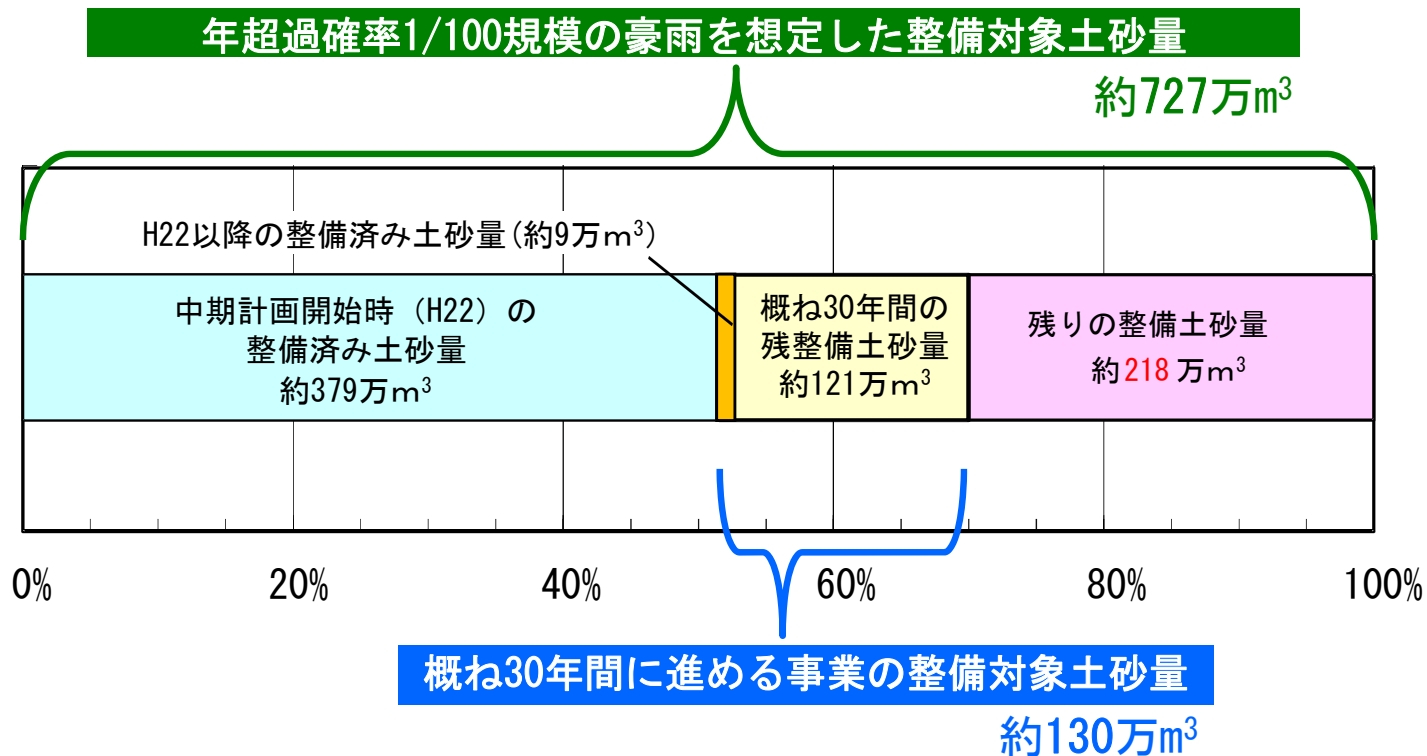
- ・時間雨量38mm、総雨量566mm(天城山観測所)
- ・土砂流出により伊豆スカイライン、市道通行止め



2) 事業の目的及び計画内容

- 年超過確率1/100規模の豪雨時により、狩野川上流域から生産・流出する大量の土砂に対して、
 - 河道の土砂堆積による土砂・洪水氾濫を軽減する
 - 土石流災害による人的・財産被害を解消する(国道136号、414号等)

- 整備対象土砂量 (砂防計画基準点において流出抑制しなければならない土砂量)



- 概ね30年間に進める事業
既往最大(昭和33年)の土砂生産でも地域が安全となるよう砂防施設整備を進める

- 費用対効果 B/C = 7.1 (前回 平成25年度 事業評価時)

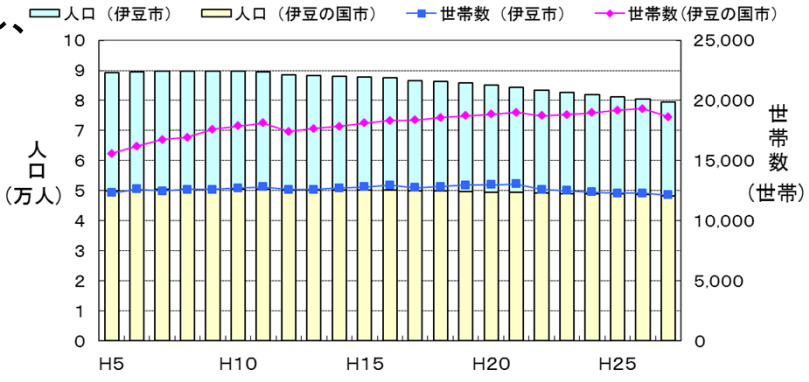
2. 評価の視点

1) 事業の必要性に関する視点

(1) 事業を巡る社会情勢の変化

■ 狩野川直轄砂防区域には、伊豆市、伊豆の国市が位置し、人口はゆるやかに減少傾向、世帯数は増加傾向です。伊豆半島全域の年間観光交流客数は 約4,200万人です。

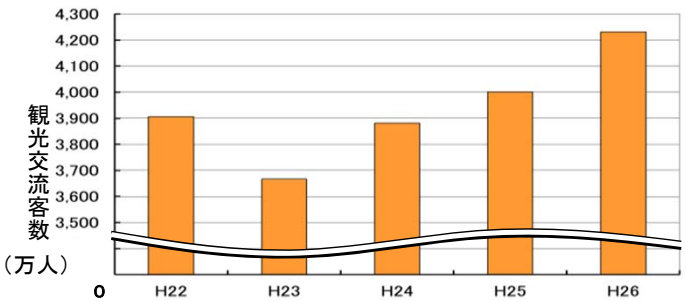
【直轄砂防区域の人口・世帯数の推移】



出典：国勢調査、静岡県人口推計調査

■ 伊豆半島を南北に縦断する伊豆縦貫自動車道の整備が進められ、観光、地域活性化、また緊急輸送路としての機能などが期待されます。また、国道136号、414号などの災害時の緊急輸送路が直轄砂防区域内を通り、土砂災害に対する安全性・信頼性の向上が求められています。

【伊豆半島の観光交流客数の変化】



出典：静岡県 文化・観光部観光交流局 観光政策課

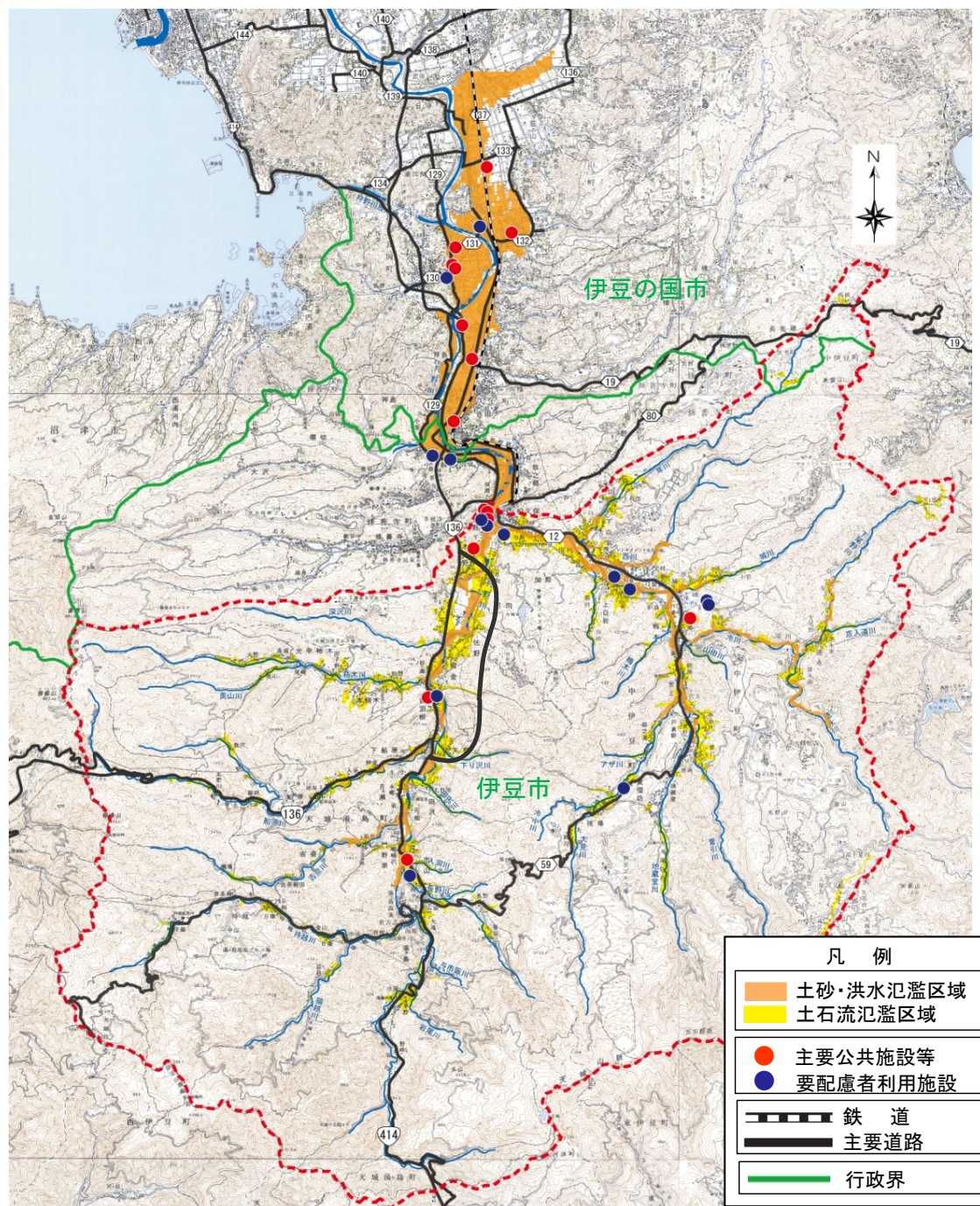


伊豆地域の緊急輸送路

(2) 災害発生時の影響

中期計画開始時点（H22）で、年超過確率1/100規模の豪雨が発生した場合、土砂・洪水氾濫及び土石流氾濫により甚大な被害が想定されます。

想定氾濫面積	約 22.5km ² 土砂・洪水氾濫 14.3km² 土石流氾濫 8.2km²
想定氾濫区域内人口	約32,000人
想定被害家屋数	約13,000戸 土砂・洪水氾濫 10,271戸 土石流氾濫 2,823戸
主要公共施設等	国道136号・414号 主要地方道12号・19号・59号 すんず 伊豆箱根鉄道駿豆線 市役所 2 小学校 4、中学校 1 警察署 1、消防署 1 他
要配慮者利用施設	老人福祉施設 1 介護保険施設 6 医療提供施設 3 幼稚園 1 保育園 2



土砂・洪水、土石流想定氾濫区域(無施設時)

(3) 事業の効果

概ね30年間に進める事業(施設整備)により、直轄砂防区域及びその下流の保全対象(家屋、主要公共施設、要配慮者利用施設など)への、土砂・洪水氾濫被害、土石流氾濫被害を軽減します。

土砂・洪水氾濫面積 (確率規模 1/50)
中期計画開始時



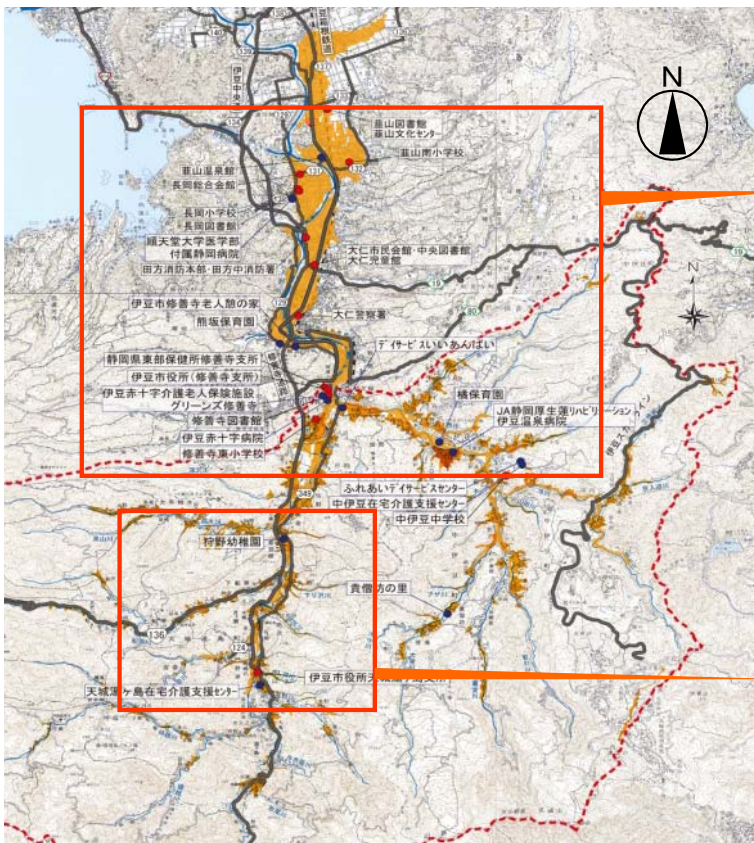
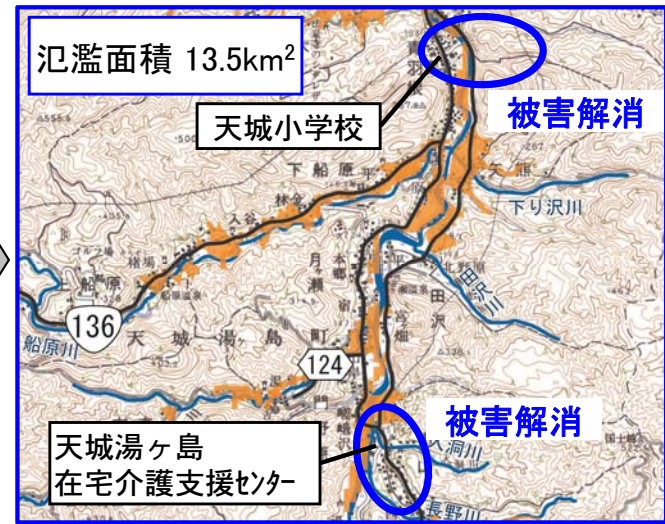
中期計画完了時



土砂・洪水氾濫面積 (確率規模 1/100)
中期計画開始時



中期計画完了時



	中期計画 開始時	中期計画 完了時
土石流による 想定被害家屋数	2,823戸	2,018戸

※面積・家屋数については、今後変わる場合があります。

(4) 事業の進捗状況

■ 施設と整備量

平成22年度末時点から10基の砂防堰堤が完成し、約9万m³の土砂を捕捉する効果が向上しました。

■ ハード対策



峰ノ平沢砂防堰堤



入の洞砂防堰堤

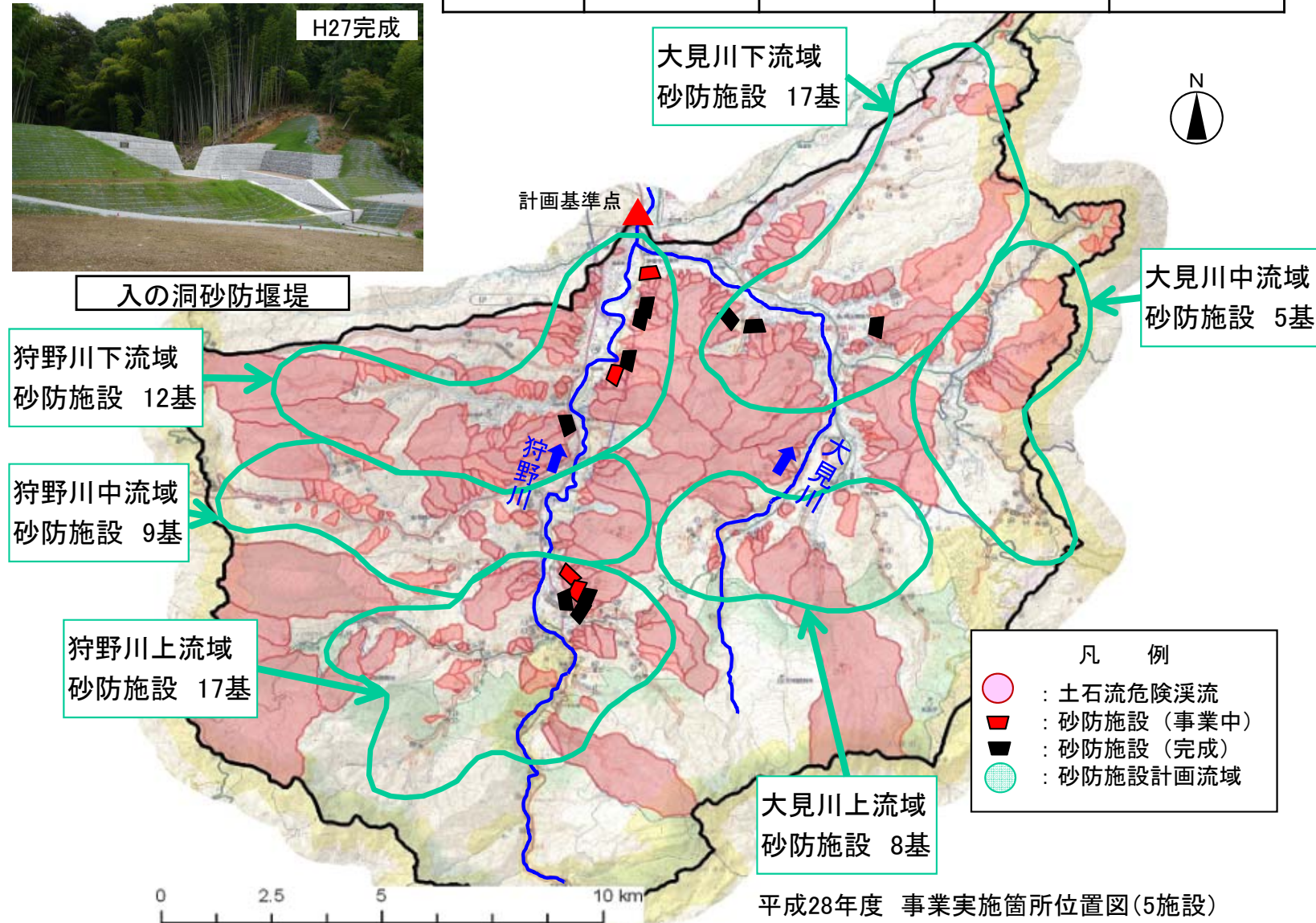


小豆沢砂防堰堤



長沢川砂防堰堤

項目	概ね30年間の整備施設 (中期全体)	前回事業評価時までの完成施設 (H23~H25)	前回事業評価時からの完成施設 (H26~H28)	残りの整備施設
砂防施設	68基	5基	5基	58基



平成28年度 事業実施箇所位置図(5施設)

3. 県への意見聴取結果

県への意見聴取結果は、下記のとおりです。

本事業は、狩野川上流域から流出する大量の土砂に対して、砂防施設を整備することにより、土石流などから流域住民の生命・財産を守るとともに、国道136号等の主要公共施設の被害を防止し、地域の安全性の向上を図るものであり、本県にとって重要な事業です。

引き続き、早期の効果発現に向け事業を推進するとともに、更なるコスト縮減が図られるよう併せてお願いします。

また、各年度の事業実施に当たっては、引き続き本県と十分な調整をお願いします。

4. 対応方針(原案)

以上のことから、狩野川水系直轄砂防事業は継続する。